



日 本歯科大学とサンリオがコラボして、ハローキティが歯科医師となってデビューしました。口腔リハビリテーション多摩クリニックの歯科医師用白衣を着用し、日本歯科大学のロゴが入った歯科用タービンハンドピースを抱えています。ピンクの靴を履いているのが、とてもかわいいハローキティです。リボンの色も白衣に合わせています。ハンドピースは、ほぼ原寸大ですので、まるで歯科診療室にハローキティが現れたようです。

学校キティは数多くありますが、歯科大学とのコラボは初めてです。もちろん歯科医師姿になったマスコットも初めてです。

本学の学生だけでなく、校友の先生方や歯科関係の方々に、そして歯科とは無関係な方々にも、末永く愛されることを祈っています。問い合わせは両学部の売店、もしくは校友会までお願いします。



時計回りに左上から、井上 陵平君(3年)、佐々木 桃子さん(5年)、内藤 彰美さん(4年)、伊藤 裕理さん(3年)、稲田 涼君(4年)、岡本 祐介 君(5年)。KOYU Times編集委員会では各号1回目の編集会議に学生代表の皆さんをお呼びして意見を聴き、紙面作りの参考としています。

校友会からのご挨拶

「定期受診」の話

光安一夫
相談役(47回)



肺 炎は死因の第3位とされているが、要介護になるとかなりの頻度で摂食・嚥下障害がおこる。いまや歯科受診者の1/3が高齢者の口腔ケアが必要とされている。

呼吸器感染症を始め全身の疾患(脳卒中・肺血症・糖尿病・骨粗鬆症・早期低体重児出産)の発症とも密接な関連を持つ。口腔ケアは生活の質を維持するためだけでなく、種々の疾病の予防にも繋がっていく。

「口腔ケア」には口腔保健指導、口腔清掃に始まり、歯周病治療の予防を行う「器質的口腔ケア」と齲蝕治療、歯周病治療、義歯作成等も行い、摂食、発音、構音機能、その他重要な機能を維持、改善させる「機能的口腔ケア」がある。

口腔は食べものを咀嚼・摂取する働きだけでなく、発音・呼吸という重要な役割を担っている。そのため、呼吸器感染症を始め、全身の疾患の発症とも密接な関連を持つ。「口腔ケア」は、生活の質を維持するためだけでなく、種々の疾病の予防にも繋がっている。

健康・病的な状態を問わず、進行した症状をもつ歯を高度な歯周治療や歯内療法、それに続く補綴治療を行い、抜歯という次のステージに至らないようにするのが予防である。

歯科医院の介入が早いほど、診療に要する時間は短くて済み、到達できる健康度は高い。患者は最少の負担で高い利益を得ることができ、歯科医院は高い満足度を提供することによって増患・増収・増益につながる。

「口腔ケア」を怖がらない乳幼児に始まった「定期健診」が生活の一部になり、国民の理解と協力が高齢時代になっても「口腔ケア受診の習慣」が活かされていれば、全身疾患を避けることも可能。勿論、医療費増大を抑えることも可能であろう。

白い歯 きれいな歯並び 丈夫な歯

テーマは

CHANGE

第58回富士見祭

初日はあいにくの雨でしたが、翌日は天候に恵まれ無事に富士見祭を開催できたこと、また先生方、学生会会員、先輩方、そして各部活の仲間などご協力していただいた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は今年度富士見祭実行委員長として、今まで続いてきた伝統を大切にしたいと、さらにより良い富士見祭にしたい、変えていきたいという思いを込めて「CHANGE」を今年度富士見祭のテーマに決定いたしました。

富士見祭当日は、ちょい足し、大学生クイズ、ビンゴ、女装・男装コンテストなどの企画もとても盛り上がっていました。特に、大学生クイズでは早飲み・早食い、またアルジネートで印象採得や、歯の鑑別と歯科学生らしいことをしてみたりと1番の盛り上がりを見せていました。模擬店も多く出店され大盛況でした。今年度の芸能人企画では奥 華子さんを招きLIVEをしていただきました。アンコールでは楽屋に置いてあった顎模型や日本歯科大学キティのマスコットを舞台上に持って上げていただき、会場を盛り上げてくださいました。

今回の富士見祭のテーマは「CHANGE」でしたが変わらないことの大切さも感じました。お祝いをいただいた校友会ともこれからも変わらず、またより良い関係を作れていければと思います。

このような貴重な経験をさせていただき、本当に感謝いたします。ありがとうございました。

生命歯学部4年 内藤 希



第44期

学生委員会、体育会、文化会、学術会役員交代式

1 2月9日、午後7時より日本歯科大学新潟生命歯学部レストランスクエアにおいて第44期 学生委員会、体育会、文化会、学術会役員交代式が学長 中原泉先生をはじめとする本学関係者11名、校友会より校友会副会長 藤井重壽先生、校友会常務理事 橋本博之先生をお迎えし新旧役員28名にて執り行われました。まず、学長 中原泉先生より現代人のモラルを問うお話をいただきました。また、校友会副会長 藤井重壽先生より「考証 中原市五郎史伝」が上梓されたことやその編纂の経緯についてのお話がありました。そして、学部長 関本恒夫先生より他大学の先生方との交流についてのお話がありました。その後、新旧役員の交代の挨拶がありました。会はビュッフェスタイルの会食であり、和やかな雰囲気でお話いただきました。今日をもって、新たな役員となり、心機一転、新たな立場として本学のため、校友会の方々、諸先生方、

諸先輩方のご指導、ご鞭撻の下、活発に活動していきたいと思います。

新潟生命歯学部4年
阿久津里沙



校友会・歯学会入会オリエンテーション

校友会・歯学会入会オリエンテーションが、新潟生命歯学部の6年生を対象に平成26年12月9日(火)に開催されました。出席された6年生は配布された校友会・歯学会会報を取り取りながら、熱心に校友会・歯学会の先生方の説明に耳を傾けていました。

6年間の学生時代を見守っていた校友会は、卒業後、開業後の歯科医師としての活動を支援していきます。6年間お世話になった大学の先生は歯学会という歯科医学研究のプロ軍団になってサポートしてくれます。

本学の卒業生は校友会を通して母校と繋がっているのです。卒業の晴れの日を迎えられましたら、校友会・歯学会入会歓迎会でお会いしましょう！！



前号から校友会HPのQRコードを掲載することになりました。大学関連のHPともリンクしている校友会HPに気軽にアクセスして、様々な情報をゲットしてみてください。

校友会主催 平成26年度 ポストグラデュエート・コース

毎年、生命歯学部と新潟生命歯学部で開催されます。実習・デモを積極的に取り入れ、原則として講座と診療科が連携して担当します。基礎医学から先端医療まで魅力あるテーマに合わせ、日常臨床に役立つ知識と新たな技術が、無理なく自然に身につくコースです。今年も三つのテーマで、有意義な講座が開催されました。

Aコース 7月17日(木) 生命歯学部

「わかる! できる! 睡眠治療

～睡眠時無呼吸症候群における歯科的アプローチ～」

病態、検査、医科との連携、治療方法を学び、実際に口腔内装置(OA)を相互実習で製作しました。

Bコース 7月26日(土) 27日(日) 生命歯学部

「上顎インプラント手術に必要な基礎的知識

～上顎洞を後上方から解剖する～」

初日は解剖学、画像診断学、インプラント手術の講義、二日目はご献体の画像解説の後、解剖実習とインプラント外科手技のデモが行われました。

Cコース 10月25日(土) 26日(日) 新潟生命歯学部

「知っていて安心! ステップアップ歯周外科」

初日は基礎から最新の歯周病治療の講義、二日目は「プタ下顎骨を用いた歯周外科手術・Widman改良法を用いたフラップ手術、結合組織移動術」の実習を行いました。



校友会主催 女性の会スタディーコース開催 目覚ましい歯内療法に進歩

— 迅速な根管形成と3D根管充填を体験してみませんか? —

スタディーコースは復職サポートを目的に開催しています

今回初めて参加させていただいた「女性の会スタディーコース」でしたが、とても興味深く、大変充実した1日となりました。

参加されていた先生方は出産、育児を終えられて「また働くぞ」と、母からドクターへのやる気に満ちあふれた先生や、旦那さんと一緒に働中で旦那さんに負けない女性としてのスキルを持ちたいと目を輝かせる先生など意欲的な先生方が沢山いらっしゃいました。

女性として働く中で出産や育児など女性ならではの様々な問題があると思います。そういった中で、この女性の会はそんな不安や悩

みを埋める1つの場であったり、女性として働く大変さを共有し合える場なのではないかと思っています。

今回のスタディーコースでは、現在の歯内療法で最先端の治療法でもあるマイクロスコープ、Ni-Tiロータリーファイル、CBCTを用いた診断、術式、ノウハウ、テクニックを贅沢にも目一杯教えていただきました。実習ではNi-Tiを使った形成とCWCT法による充填操作を行った他、実際にマイクロスコープを一人一人が触れることができました。

卒業してしまうと、大学での今のやり方や注目している事などを直接教えていただける機会が少ない中で、このスタディーコースはとても実りの多い充実したものでした。是非また参加させていただきたいと思っています。

大滝絵梨花(96回)



校友君インフォメーション



Q. 校友会・歯学会はどんな活動をしているのですか?

1. 会員相互の親睦と卒後研修に努め、あわせて会員の福祉共済事業を行います。
2. 歯学の進歩と国際交流に貢献し、母校の発展に寄与します。
3. 会員並びに学生の顕彰を行うなど、校友の意識の高揚と研鑽の奨励を図ります。
4. 歯科医業・医政の研究を行い、会員への広報活動を充実し、あわせて歯科界の発展に寄与します。



第6回 東京・新潟をつなぐ会 in 栃木

「学籍番号115番 中原です」の一声で、会場は大きな笑いに包まれた。

中原学長、沼部先生、藤井先生をお迎えして、恒例の東京・新潟の学生そして栃木県校友会をつなぐ会が平成26年8月26日(火)、栃木県総合

文化センターにて生命歯学部14名、新潟生命歯学部11名、校友会役員と両歯学部非常勤講師10名で開催された。

生命歯学部4年の平野さんから、授業カリキュラム・講義室の様子・生命歯学部自慢のPCルームや図書

館の紹介と、小児歯科学・総義歯の配列・ワックスアップなどの実習に苦勞したことを、土澤君からは生命歯学部付近の変わりゆく飯田橋駅前や大学周辺の近況を紹介してくれた。

新潟生命歯学部4年沖君からは、学部付近の立地環境と学内の1号館から8号館・医の博物館までのキャンパスと、23時まで開放されるPCルームで学生が自由に勉強できる環

境について、田沼君からは携帯電話を用いた新潟生命歯学部のソクラテス授業などの様子を紹介してくれた。

時間が過ぎるのも早く、大川会長見守る中、幹部交代式が行われ、生命歯学部3年大橋さん、近藤君、新潟生命歯学部3年今井君、八坂君に引き継がれ、2015年夏の再会を誓い会場を後にした。

☆神奈川県人会が開催されました☆

平成26年11月9日(日)に横浜元町中華街の「カフェラポエム」にて神奈川県人会が開催され、今回は在校生10名と県校友会より5名の先生方の参加がありました。この会は長らく開催されずにいたため、ノウハウが失われており手探りでこのスタートでしたが、先生方の優しげな雰囲気のおかげで和やかな会

となりました。また、参加した学生からは「楽しかったです。来年もあればいい。」等といった意見も出ていたので、同県民のつながりを楽しみながら作るという県人会の目的は達成できたように思われます。

次の開催を今年の初夏近くに計画しておりますので、今回参加出来なかったという方もぜひご参加ください。最後に今回の開催に当たり、ご尽力、ご協力いただいた県校友会の先生方、ならびに関係者の方々はこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

生命歯学部4年
小沼 晃



校友君インフォメーション

神奈川県校友会新年会のお知らせ

神奈川県出身の在校生の諸君、明けましておめでとうございます。楽しいアトラクションもありますので、県校友会の新年会に奮ってご参加ください。

記

日時 : 平成27年2月7日(土) 午後7時より
場所 : ローズホテル横浜(横浜中華街)
会費 : 無料
申込先 : 堀元隆司(81回) Tel 045-910-1881
Email ryuji_horimoto@mac.com

図書館からのお知らせ

図書館もTwitterとFacebookに参加しています。Twitterは、主に図書館の開館情報などを掲載しています。Facebookには、図書館のちょっとした記事を投稿する予定です。どうぞご利用ください。

Twitter : <https://twitter.com/nissshilib>
Facebook : <https://twitter.com/nissshilib>

Twitter



Facebook



診療室での物語

カルテ No.8 一期一会



新潟病院
小児歯科科長／
障害児・者歯科センター長
島田路征(82回)

「一期一会」この言葉は茶道の心得で、簡単に言うとその時合った客人にはもう二度と会えない覚悟で精一杯もてなせという教えだ。ある経験から私はこの言葉を心の真ん中に置いて診療に臨んでいる。14年ほど前だろうか？ 私は無

痛無汗症という疾患を持ったK君を担当した。無痛無汗症とは痛覚が乏しいため痛みを感じず、汗腺が少ないため汗をかけない先天性疾患である。この疾患の歯科的特徴は自分で自分の歯を抜くことだ。K君は当時5～6歳であったにも関わらず、多くの乳歯や永久歯を自分で抜いて失いかみ合わせる歯がほとんど残っていなかった。また、K君は知的障害も重度で言語障害もあり、私自身「アホ」「バカ」しか言われた事がない。よほど嫌われたのかと思ったが、お母さんの言うには一種の愛情表現なのだそう。

そんなK君との思い出で印象深い事がある。K君の診察をしていた時のこと。突然K君は自分の指を口の中に入れ、自分の人差し指を食いこぎった。こう書くともうホラー映画みたいだが、K君は以前から自分の指を噛む癖があり、痛みを感じない分、深く噛み込み指が徐々にちぎられて

いくのだ。そのためK君のほとんどの指は第一関節から上が無い。その時、食いこぎった指も噛んで肉片と化した指先が斜削膏で辛うじて止められていたに過ぎなかった。念のためと思い本学附属医科病院外科で診察してもらったところ、担当のT教授は健康な指が切断されたと思っらしく、取れた指について私に問われた。私は少なからず狼狽した。なぜなら私はかみつぶされてタダ指がどうにか成るとは思わず、診療室のゴミ箱に捨てたのだ。私はT教授に事情を説明したが兎に角見たいとおっしゃるので、内心「あれ付けられるの？」などと思いつつ、診療室にとって返して、同僚、後輩の好奇の視線を背中に感じつつゴミ箱をあさった。T教授は拾ってきた指の残骸を見て、ようやく私の行為に合点がいった様子であった。この後、事情をよく知らない同僚や後輩達は、しばらく私を「指を捨てた不心

得者」扱いしたものである。

それから数年たったある日、K君のお母さんから急に電話を頂いた。いつもは明るいお母さんだが、電話越しの声は暗く沈んでいた。その声は今も耳が覚えている。それはK君が亡くなったという知らせであった。風邪が何かで発熱したK君は発汗できないため体が熱が籠もって熱中症様の状態に陥り、そのまま帰らぬ人となった。K君にもう会えない現実を受け止めるのに、多少の時間が必要であった。また会えると極当たり前に考えていた。今、考えれば「また」が必ずある方が非常識なのに当時の私は無邪気で無知だった。

K君の死は私に「一期一会」の真意を教えてくれたのだと思う。K君に精一杯つくせたと正直、自信は無い。だが、こうすれば良かったと思っても、永遠にやり直しは効かない。今できる事は、また後悔しないようにするだけである。

校友の 歴史の重さ 手渡して 頼むぞ後輩 母校の未来 伝統を 守ってゆきます 我々も 富士見・浜浦 熱き心で